

共同研究グループ活動報告（2013年度）

（文責 深澤 徹）

日中関係史

13年度の活動は、下記講演会の開催だけに終わった。

・高見邦雄氏（緑の地球ネットワーク事務局長）
「黄色い大地に広がる緑—日中草の根協力の20年」

他に、従来は日中関係史で取り組んできた研究会や講演会、シンポジウム等は継続して行った。例えば留学生史研究については、学内共同研究奨励金助成を得、戦後の在日中国人（華僑・留学生）に関する研究については、「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその意味」と題する研究の一部として同じく学内共同研究奨励金助成を得て別個に実施したが、それらに関する報告はそれぞれの報告にゆだねてここには記さない。また、中国における旧日本租界関連の研究は、非文字資料研究センターのグループ研究として行っているが、やはりここでは触れない。

ここで問題になるのは、一部の人が上記の数テーマに忙しそうに取り組むのみで、グループに参加する皆が集まり、各自が関心を持つテーマの紹介やら問題提起をする機会をこの数年開いていないことである。14年度にはぜひ実行したいと思う。

（文責 大里浩秋）

東アジア比較文化研究会

・研究会の開催

日時：2014年2月19日（水）17：00～19：00
場所：7-216

発表者：①深澤徹「謡曲「翁」のトポス」／②鈴木陽一「江戸時代（18世紀末～19世紀初）における日中文化交流について」

活動内容：時期的な制約もあって参加者は少数であったが、研究会メンバーの深澤と鈴木が連続して口頭発表を行い、活発な意見交換がなされた。

色彩と文化Ⅲ

1. 研究会

・日時 2013年7月30日（火）17:00～19:00
・場所 17-215室
・議題

(1) メンバー紹介

(2) 今後の活動計画

1) 具体的な研究テーマ

・色・都市・ひと

・禁色の研究

・世界における色のシンボル

2) 叢書の企画

3) 海外調査（東アジア、モンゴル、ベトナムを含む）

4) 講演会等の企画

5) 図書の購入

2. 活動報告

研究所長より当研究グループに叢書第34号の執筆の打診があり、それを引き受けることとした。執筆は三星が行うこととした。第2回研究会を2月または3月に開催する予定である。また3月にメンバー3人で多民族国家マレーシアにて民族の色彩について調査を行う予定である。

（文責 三星宗雄）

ブランゲ文庫研究

【学内共同研究奨励金助成グループ】

「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその意味—『ブランゲ文庫』を起点に考える」の報告書と兼ねる。

（文責 孫安石）

活字文化の研究

1. 講演会・研究会の開催：特になし（適宜、メ

ンバー間での情報共有を行った)

2. シンポジウムの開催：特になし

3. 活動内容

- (1) 活字を通じた日本語教育と異文化理解（国際）に関する調査・研究
- (2) 活字文化普及のための教育・啓発活動（教育）に関する調査・研究

（文責 松本安生）

〈身体〉とジェンダー

昨年度より始動した本研究会は、各担当地域における〈68年〉とジェンダーに関わる年表の作成と意見交換といった数回の研究会を経て、共通の問題意識を構築することに努めた。これに引き続き、本年度は個々の問題意識を深化させることに集中した。新たに新メンバーの加入もなされ、来年度は積極的に成果発表を行うことができればと考えている。

（文責 小松原）

自然観の東西比較

今年度の活動として、「研究設備の整備」を目的とした研究資料購入のための大型予算を、「自然観を基礎にした文化の東西比較研究コレクション」として申請した。

2012年度の2件の研究発表の後、2013年度は講演会と研究会を開催することはできなかったが、2014年度に向けて準備をし、少なくとも講演会を1回、研究会を1回開催する予定である。

また、「自然観の東西比較」に関するシンポジウムについても、準備をして開催する計画を立てる予定である。

（文責 伊坂青司）

近代都市の表象

1. 講演会・研究会の開催

研究会の開催を検討中

2. シンポジウムの開催

予定なし

3. 活動内容

近代の東洋ならびに西洋の諸都市の来し方や現況について、表象という切り口から分析を試みている。

数年後に人文学研究叢書を出版することを目標としている。

（文責：鳥越輝昭）

ヒト身体の文化的起源

1. 講演会・研究会の開催：

① 2014年3月上旬（予定）、村井昭彦（東京大学大学院情報理工学系研究科 研究員）「全身神経筋骨格システムの構築とその応用（仮）」

2. 活動内容

①人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討した。

I. 特に関節運動を増幅するアキレス腱の屈曲点について調査・研究を進めた。研究内容は2013年7月のThe Society of Experimental Biology Annual Main Meeting 2013（スペイン・バレンシア）の“Muscle-Tendon Interactions”というセッションで「How can the muscle be organized to accomplish tendon displacement at the calcaneus that are similar to the muscle fiber length?」と題する招待講演を行った。また、2013年6月の18th annual Congress of the European College of Sport Science（スペイン・バルセロナ）で「True identity to move the foot quickly」と題する一般発表を行った。

II. アキレス腱の機能を調べる一環として、ランニングの着地によるアキレス腱の長さ変化に関する研究を行っている。2010年1月の『Nature』誌に“日常的に裸足のランナーと靴を履いたランナーの足の着地パターンおよび衝撃力”と題する研究論文が発表された。裸足で走るランナーは、つま先の付け根に近い部分で着地し、足先と脚部が自然にバネのように動くため、足裏にかかる衝撃力が靴を履いたときよりも最大で70%も緩和されることが明らかになっている。こ

の衝撃力を緩和する人体内器官として、一つの可能性としてアキレス腱が挙げられており、ランニングの着地について再考する学術イベント（神奈川スポーツサミット）を2014年2月15日に本学で開催する。私達はこの学術イベントにおいて、ランニングの着地に関する測定ブースを開催する。

（文責：衣笠竜太）

帝国とナショナリズムの言説空間

1. 研究会の開催

第1回：7月3日（水）午後4～6時

場所：17-401号室

（横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室）

講師：泉水英計氏（本学経営学部准教授）

論題：「沖縄語りの切り替わる瞬間——言説空間の移動に伴うナショナリズム言説の複数性について」

第2回：12月18日（水）午後4～6時

場所：17-401号室

（横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室）

講師：村井寛志氏（本学外国語学部准教授）

論題：「非常事態時期マラヤのスクウォッタ—再定住事業をめぐる言説空間」

2. 活動内容

今年3月まで活動した共同研究グループ「植民地近代性の国際比較」を引き継ぐかたちで、本年7月に発足した新しい共同研究グループである。2014年3月中旬には、共同研究グループ「植民地近代性の国際比較」のもとで編集された、永野善子（編）『植民地近代性の国際比較：アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験』（御茶の水書房、2013年）の合評会を本学箱根保養所で開催の予定である。

（文責：永野善子）